



新春の候、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。本年も月ごとの最新トピックスをお届けします。

## 国内動向

### ① 平成25年度152物質GHS分類結果の公表(製品評価技術基盤機構(NITE))

NITEは、平成25年度厚生労働省、環境省が分類した152物質(新規分類90物質、再分類62物質)の結果を公表した。[http://www.safe.nite.go.jp/ghs/ghs\\_ver201411.html](http://www.safe.nite.go.jp/ghs/ghs_ver201411.html) [http://www.safe.nite.go.jp/ghs/h25\\_mhlw\\_list.html](http://www.safe.nite.go.jp/ghs/h25_mhlw_list.html)

### ② 消費者製品含有化学物質のばく露量推算ソフトを公開(製品評価技術基盤機構(NITE))

NITEは、消費者製品含有化学物質のばく露量推算ソフトCHEM-NITE ver.2を公開した。GHS表示のための消費者製品のリスク評価手法のガイダンスに対応し、CHEM-NITE for GHSを使用することで、評価手法ガイダンスの「付属書1: 消費者製品のリスク評価に用いる推定ヒトばく露量の求め方」に基づいたばく露量推定を行うことができる。[http://www.safe.nite.go.jp/risk/chem\\_nite.html](http://www.safe.nite.go.jp/risk/chem_nite.html)

### ③ 「労働安全衛生法 化学物質による健康障害を防止するための指針の一部を改正する指針」の周知について(厚生労働省)

厚生労働省は12月3日、「労働安全衛生法第28条第3項の規定に基づき厚生労働大臣が定める化学物質による健康障害を防止するための指針の一部を改正する指針」についての周知を行った。改正指針に追加された対象物質は以下のとおり。事業者等が講ずべき措置などの詳細については下記URLを参照。

- ・ジメチル-2, 2-ジクロロビニルホスフェイト(別名DDVP)(CAS: 62-73-7)
- ・スチレン(CAS: 100-42-5) ・1, 1, 2, 2-テトラクロロエタン(別名四塩化アセチレン)(CAS: 79-34-5)
- ・トリクロロエチレン(CAS: 79-01-6) ・メチルイソブチルケトン(CAS: 108-10-1)

<http://www.hourei.mhlw.go.jp/hourei/doc/tsuchi/T141205K0020.pdf>

## 海外動向

### ① QSAR Toolbox の新バージョン公開について(OECD)

OECDは11月、QSAR Toolboxの新バージョン3.3を公開した。新バージョンではプロファイラーや代謝シミュレーターが更新され、クエリーツールなどが改善され前バージョンに比べ使いやすくなったほか新機能が追加された。また、化学物質と生体(組織)の相互作用から個体(群)での毒性影響を関連づけて説明する考え方: Adverse outcome pathways (AOP)のコンセプトに基づく皮膚感作性予測アプローチが導入されている。

<http://www.oecd.org/env/ehs/risk-assessment/theoecdqsartoolbox.htm> <http://toolbox.oasis-lmc.org/?section=download&version=latest>  
<http://www.oecd.org/env/ehs/risk-assessment/Toolbox%20Client-Server%20configuration%20manual.pdf>

### ② CLHに関する23の科学的意見採択について(欧州化学品庁:ECHA)

ECHAのRAC(リスク評価専門委員会)は12月、CLH(調和化された分類・表示)に関する23の科学的意見をまとめた。対象物質については下記URLを参照。

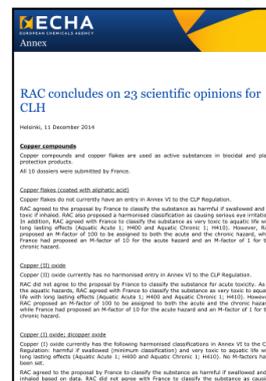
[http://echa.europa.eu/documents/10162/21774240/Annex\\_RAC31B\\_CLH.pdf](http://echa.europa.eu/documents/10162/21774240/Annex_RAC31B_CLH.pdf)

### ③ エチレングリコールエーテル類7物質をSNURに追加(US EPA)

米国EPAは、消費者の健康を守るため、エチレングリコールエーテル7物質に対し、重要新規利用規則(SNUR)を追加することを公表した。対象物質は以下のとおり。

- ・モノエチレングリコールジメチルエーテル(モノグリム、CAS: 110-71-4)
- ・ジエチレングリコールジメチルエーテル(ジグリム、CAS: 111-96-6)
- ・エチレングリコールジエチルエーテル(エチルグリム、CAS: 629-14-1)
- ・ジエチレングリコールジエチルエーテル(エチルジグリム、CAS: 112-36-7)
- ・トリエチレングリコールジメチルエーテル(トリグリム、CAS: 112-49-2)
- ・ジエチレングリコールジブチルエーテル(ブチルジグリム、CAS: 112-73-2)
- ・トリエチレングリコールジブチルエーテル(ブチルトリグリム、CAS: 63512-36-7)

[http://www.epa.gov/oppt/existingchemicals/pubs/prepublicationnotice\\_2014-12-10.pdf](http://www.epa.gov/oppt/existingchemicals/pubs/prepublicationnotice_2014-12-10.pdf)



## 特集 ④①：作業環境における化学物質のリスクアセスメント:その③

先月号では、定性的なリスクアセスメントである「コントロールバンディング」について紹介しました。コントロールバンディングは、SDSさえあれば誰でも実施可能という手軽さがありますが、ある一定の幅(バンド)による評価であるため、実施すべき事項として「使用の中止、代替化」などが示される場合があり、これらの管理措置に対応することは難しいと予想されます。

その場合の1つの方法として、ばく露のレベルを数値として予測できるツールであるECETOC TRAという数理モデルを用いる方法があります。

ECETOC TRAとは、欧州化学物質生態毒性・毒性センター(European Center of Ecotoxicology and Toxicology of Chemicals)が、REACH対応のリスク評価を目的として開発したものであり、多くの物質や用途の中で優先的に評価すべきものを選定するためのシミュレーション用のモデルです。このモデルは、欧州化学品庁(ECHA; European Chemical Agency)が公表しているREACHガイダンス(Guidance on Information

Requirements and Chemical Safety Assessment; Chapter R.14: Occupational exposure estimation)\*<sup>1</sup>において、第1段階(Tier 1)に用いるべき推奨ツールとして記載されており、EUでは多くの実績があります。また、事業者の皆様が使い慣れたExcelマクロの形式であり、必要な情報のうち多くの項目が選択肢から選べるようになっていて、使いやすいツールです。

今回は、ECETOC TRAを用いたリスクアセスメントの具体的な例について、ご紹介します。(担当:片桐)

\* 1: [http://echa.europa.eu/documents/10162/13632/information\\_requirements\\_r14\\_en.pdf](http://echa.europa.eu/documents/10162/13632/information_requirements_r14_en.pdf)



### CERIのお勧め紹介⑦: 「CLP分類のデータベース」

CERIのお勧め紹介では、CERI職員のお勧めの図書、ツール、情報を連載でお伝えしています。

今回はECHAが公開しているCLP分類及びDSD分類のデータベースについてご紹介します。検索BOXに目的の物質のCAS番号又は名称を入力すると、対象物質の調和分類や企業による分類の情報を得ることができます。(担当:林)

<http://echa.europa.eu/web/guest/information-on-chemicals/cl-inventory-database>



### お知らせ

#### ① GHS分類の理解 SDSおよびラベルの作成・活用セミナーの開催

平成27年2月25日(水)、東京(駒込、滝野川会館)において開催されるセミナー「GHS分類の理解 SDSおよびラベルの作成・活用」にて吉川職員が講師を務めます。割引制度がありますので参加ご希望の方はご連絡ください。

[http://www.johokiko.co.jp/seminar\\_medical/AA150283.php](http://www.johokiko.co.jp/seminar_medical/AA150283.php)

#### ② ICH M7変異原性不純物ガイドラインを踏まえたQSAR/in silico予測・評価の実践セミナーの開催

平成27年2月25日(水)、東京(大井町、きゅりあん)において開催されるサイエンス&テクノロジー株式会社主催の講習会「ICH M7変異原性不純物ガイドラインを踏まえたQSAR/in silico予測・評価の実践(仮題)」にて菊野職員が講師を務めます。詳細についてはお問い合わせください。

<http://www.science-t.com/st/cont/id/23592>

ご質問等ございましたら、以下の連絡先にお気軽にお問い合わせください。

**CERI** 一般財団法人 化学物質評価研究機構  
Chemicals Evaluation and Research Institute, Japan

〒112-0004 東京都文京区後楽 1-4-25 日教販ビル7F  
安全性評価技術研究所 研究第二部  
Tel: 03-5804-6135 (担当者:宮地、窪田、石井(聡))  
URL: <http://www.cerij.or.jp> Email: [cac-reach@cerij.jp](mailto:cac-reach@cerij.jp)